

- ・五條市～京都駅への所要時間が短縮。(142分→95分)
- ⑧空港へのアクセス向上
 - ・御所市～関西国際空港への所要時間が短縮。(98分→91分)
- ⑨重要港湾へのアクセス向上
 - ・御所市～下津港への所要時間が短縮。(105分→97分)

関係する地方公共団体等の意見

地域からいただいた主な意見等

京奈和自動車道建設促進奈良県民会議（H6.7設立、奈良県内各層を代表する67団体で構成）総会等にて早期整備の要望を受けている。

奈良県知事の意見：

京奈和自動車道は、奈良県の南北の基軸であり、働く場の確保に向けた企業誘致や地域経済活動の拡大といった本県の地方創生の実現に欠くことのできない重要な高規格幹線道路です。

奈良県内で初めて京奈和自動車道が供用された平成18年4月以降、その沿線を中心に、年間20件以上の企業が立地し、平成28年上半年期までの累計が267件にも上っており、本県の地方創生の実現にとって絶大なストック効果が発揮されています。

大和御所道路で事業中の2区間のうち、御所南ICから五條北IC間は、来年夏の供用が予定されていますが、橿原北ICから橿原高田IC間は、唯一のミッシングリンクとなり、並行する国道24号における慢性的な渋滞のさらなる悪化や、供用の目処が立たない状況が続けば、新たな雇用を生み出す企業の新規立地が停滞し、本県の地方創生の基本目標である「働いて良し」の実現に甚大な影響を及ぼします。

県としましても、橿原北ICから橿原高田IC間の整備促進を最重要事項と捉えており、体制を強化して、地元の橿原市、大和高田市とともに、国の用地取得の支援に取り組んでいます。

以上のことから、対応方針（案）のとおり、事業継続が妥当と考えます。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道24号大和御所道路」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切であり、対応方針（原案）のとおり「事業継続」することが妥当と判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

一般国道24号の交通量は依然として交通容量を大幅に超過している。

産業では京奈和自動車道沿線での企業立地が進んでおり、近年では増加傾向となっている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在までに専用部では大和区間（郡山下ツ道JCT～橿原北IC）9.4km、御所区間（橿原高田IC～御所南IC）6.2kmが開通済み、一般部では12.7kmが開通済み。用地進捗率：約99%、事業進捗率：約84%

御所南IC～五條北ICは平成29年度夏開通予定。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、用地取得、工事を推進し、早期の全線開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業の実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

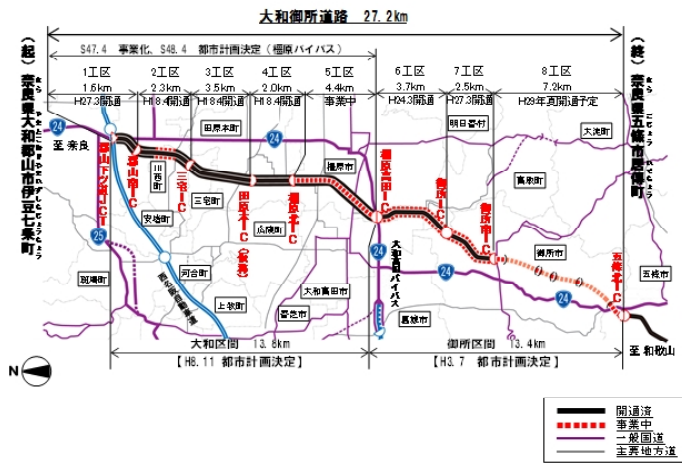
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【位置図】



【概要図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。